

報 告 書

報告者 村上真理子

1、私は原告村上定幸の妻です。2000年（平成12）11月、原告と結婚し現在2人の男児（9歳、5歳）の母で、主人と一緒に教会生活をし、特に岩出キリスト教会の運営に関しては信者さんと原告との関係が円満に行く様に努力してきました。

夫の村上定幸は、1947年（昭和22）8月生れ69歳の牧師です。1999年（平成11年）被告教団から教職執事の認定を受け、2012年（平成24年）牧師として被告教会に赴任しました。当時、既に岩出教会の教会堂は築後50年以上も経過した古い建物で、進駐軍の古材を貰って建築した物だけに傷みが酷く建替えが緊急の課題として残っていました。

主人は、前任者牧師から引き継いできたこの緊急な課題を、何とか解決する為に孤軍奮闘した結果、やっと現在の教会堂として完成させました。

2、夫に対する今回の人事は、キリスト教会という宗教団体に寄せられている世間の期待を失望させ、また主人村上の信仰心と布教への思いを踏みにじる、理事長と教会を私物化している木村さん夫妻による、理事長の任命権を利用した私的で理不尽な制裁であり、信仰とは全くかけ離れたものだと思っております。

その原因は、木村さんが教会内にもつ隠然たる支配力と驕り、木村夫妻と教団理事長との個人的で濃厚な関係、更には岩出教会の新会堂建築に携わった富澤建築士と木村さんの異常な結びつき等の結果として、「富澤建築士が犯した詐欺的行為が表沙汰にならない様に、村上を黙らせる」働き掛けにある、と思っています。

3、教会における木村さん

(1)、岩出教会は、高齢者の多い教会で、実際に教会活動に携われる教会員は殆ど木村さんだけ、と言っても過言でない程の教会です。人数が少ないので、こまめに動いてくれる様に見える木村さん（50歳代。実際には木村さんが牧師を“指図”する）に対して、多くの信者さんは遠慮や後ろめたさというものを抱えています。木村さんはそれを良いことに、いつも自分の意見を押し通してきました。こうした小さな教会を何とかしたいという熱意に燃え、4年前に赴任した村上は、赴任当初から、伝道方針や神学的教理を巡って木村さんとぶつかっていましたが（独自の宣教持論を押しつけ、村上はしばしば閉口していた）、木村さんは自分の信仰歴の長さによる自信がある事から、平然と牧師とぶつかり、決して譲ったり妥協したりすること

洋子の父の日記

はありませんでした。皆は自分の意見を言わない様に慣れていました。たまに川原さんが木村さんの意見に反対しようものなら、木村さんの意見を通さない限り会議を終わらせず、最後は皆が疲れてしまうので、結局、村
40 上も川原さんも木村さんの言う通りにするしかないということもしばしばでした。

(2)、旧会堂は2階が牧師館だったので、村上が転任した当初の新築構想では、
牧師館を併設する予定でしたが、突如、木村さんの妻洋子さんが「うちの
息子が友達を呼んで礼拝堂を使いたいと思っても、そこに牧師が住んでい
ると使いにくい」と言いだし、牧師が「新会堂が出来た際の伝道方針から
45 行って、牧師が教会に住んでいた方が断然、実行しやすい」と主張しまし
たが、結局、牧師館併設の話はとん挫しました。牧師館を併設しなかった
表向きの理由は「予算がたりなかったから」です。しかし、牧師が市内の
借家で長年に亘って住む場合の家賃の支出を考えると、「どうして予算の検
討すらしなかったのか」と多くの方々から不審がられました。村上是教会
50 担当教師として、赴任直後から、理不尽な思いと向かい合うことになりま
した。

(3)、木村さんは、教会・教団関係者への何百通にもものぼる「会堂建築の趣意
書と献金のお願い」発送の事務作業を村上一人に押し付けておきながら、
45 労う言葉が一切ないどころか、村上がその発送した趣意書に一筆を添えな
かったことを、皆の前で「教会建築はただの建築とは違う。心が大事だ。
ただ送ればいいっていう物じゃない」と、ただ非難するだけでした。しか
し、最終的に大勢の方が献金を捧げて下さったことについては、「あれは、
信徒会と私の力によるものです。はっきりいって村上先生は何もしていな
いですよ」とまで言う始末です（録音あり）。

(4)、木村さんは50歳代で、地元で農業（自営）をしています。村上も私も
60 会社勤めの経験も自由業の経験もあるので、仕事の大切は知っていますが、
木村さんの仕事はサラリーマンとは違い、建築中、たったの一度でも、平
日にちょっと顔を出す時間もない程に時間拘束された仕事ではありません。
しかし会堂建築が始まってからの数ヶ月、毎週行なわれていた現場定例会
65 に、木村さんは、責任役員でありながら、たったの一度も来た事がありま
せん。

しかも、村上が役員会で“設計図と違う箇所”を報告したところ、木村
さんは、自分の目で確認しようともせず、木村さんと極めて親しい富澤建
築士ですら「木村さんが現場定例会議に一度も来ないのには失望した」と
70 言っていました。

(5)、その反面、富澤建築士は木村さんと恒常的に連絡を取っていたようで、

村上から設計図の無断変更を指摘された時などでは、「村上にあらさがしをされ脅された。村上先生が建築会社に残金を支払ってくれない。」と木村さんに泣きついていたようです（被告答弁書）。すると木村さんは、富澤建築士の言い分を村上に何1つ確認もしないまま、村上に「ヤクザのような言い方は止めて下さい」等の非難のメールを送って来る始末です。村上は目を疑いました。そこで村上は「建築士が一個人の教会員に連絡をとって何か間に入ってもらおう等と言う事は止めてくれ。」と富澤建築士に抗議し、木村さんには、①見付けた手抜き工事や無断変更がかなり大規模で悪質であること。②変更の説明がまったく筋が通っていないこと。③変更後の補償の提案（責任）が何もないこと。④この建築はボランティアではなく、尊い献金でなされる契約書の交わされた、安全にも関わることなので、設計監理を任されている富澤建築士にはその責任の所在は明らかにする義務があること。⑤公の紛争処理機関に相談した結果、この内容は素人が自力で解決する範囲を超えている事、等を伝え、「きちんと対処してくれるまでは残金は支払えない」といいました。すると木村さんは「私は野菜を作っているが、もしも“虫が付いているから”と言う理由で値引きを迫られたら、私はそんな人には野菜は売らない。例えば新車を買ったとして、納品の際、ドアが歪んでいるからといって“値引きをしる”と言うのはおかしい。いくらドアが歪んでいても、作った人は一生懸命作ったのだから、感謝してそれを定価で買うのが普通だ。教会建築もそれと同じだ。たとえ設計図と違っていても、富澤建築士が一生懸命作ったのなら、ぼくは感謝して受けりたい。ましてや支払い拒否だのクレームをいうなんて、とんでもない」等といい富澤建築士を庇いました。それでも村上が「完成するまで残金を支払わない」と言ったので、木村さんは今度は会計の谷澤さんに「支払って下さい！支払って下さい！」と執拗に迫ったので、たまりかねた谷澤さんを助けるため、止む無く支払うことになりました。

(6)、新会堂の献堂式の準備の時、木村さんが役員会で「教団の本田先生から私に指示がありまして・・・」と指揮をとり始めたので、川原さんが「木村さんの牧師は誰やねん？岩出教会の牧師は村上先生や！なんで木村さんは本田先生に指示を仰ぐんだ？」と食ってかかったことがあります。その時、木村さんは「知りませんよ。本田先生のほうが、私に連絡してくるんです！」と答えた為、川原さんは「そんなことはあるわけないだろう。よく言うわ」と、あきれていました。

(7)、川原さんは、襟首事件のあと、牧師や私に「木村さんを、教会から辞めさせるわけにはいかないか？村上先生があれだけ怒っても、木村さんは分かっているのだから、せめて信徒代議員は辞めてもらえないだろうか？」

110 と言っていました。また、襟首事件のあと木村さんの妻洋子さんが「村上先生がいる限り、私は岩出教会に行かない」と言ったことを知った川原さんは私に、「もし、そんなことを言って村上先生を追い出したら、今度は私が洋子さんを教会には入れない！」と怒っていました。

4. 畑野理事長と木村さんの関係

- 115 (1)、木村さんはアメリカ留学時代に信仰をもち、留学先の教会から紹介されて日本フリーメソジスト教団の教会員になったと聞いています。また、妻の洋子さんは被告理事長が牧師をしている岸之里教会の教会員でした。洋子さんの家族は現在も岸之里教会の教会員であり、特に洋子さんの父(川嶋さん)は、岸之里教会付属の聖化保育園の職員です。また岸之里教会が会場になる諸集会(新年聖会等)では、常に何らかの役割を引き受けて熱心に奉仕をしていますし、木村さんも夫婦で岩出から出向き出席しています。その木村さんが岩出教会の信徒代議員をしているのです。
- 120 (2)、日本フリーメソジスト教団の牧師は世襲制ではありませんが、岸之里教会は教団分裂紛争の時以来、畑野氏親子が主任牧師の座を離れたことは一度もありません。これは、教団内では、触れてはいけない暗黙の了解となっています。畑野理事長の権力は絶対で、中江理事(任地指定委員会でもある)の娘も孫3人も岸之里教会の教会員となっているので、中江理事は畑野理事長と揉めるのは極力避けたい立場にあります。
- 125 (3)、村上に対する人事について、下方さんが理事長に質問するや、理事長は「教会担当教師の人事の窓口は信徒代議員のみであること」を再確認する文言を、教団総会の理事長声明の中でわざわざ述べ、「木村さん以外の人」からの問い合わせを拒否しました(声明のコピーあります)
- 130 (4)、木村さんは富澤建築士(岩出教会の設計と監理)を異常なまでにかばいますが、畑野理事長は、それについてまったく黙認しています。何故ならクリスチャンである富澤建築士は、馬場理事の義息(大澤恵太師:桜井聖愛教会牧師)、教区長の篠原師(前々岩出教会牧師、現大阪城東教会牧師)、そして岩出教会の真柳牧師と学生時代からの友人関係にあります。新会堂の献堂式では親しく挨拶もしていましたし、教団教派を越えて一緒に青年キャンプ等の伝道活動に携わり、またフェイスブックでも友達登録をしている仲です(FBの写真あります)。しかも、富澤建築士の父は
- 135 日本同盟基督教団の牧師ですが、日本フリー、日本同盟の両教団が共に加盟しているJEAで、畑野師は長年、役員(理事?)をしているので、自分の立場上、その方の息子の失態を表ざたにしたくないはずです。だから、今回の襟首事件がなかったとしても、村上が「設計図の無断変更」
- 140

145 について騒ぐことは、理事長にとっても、また理事達や教区長にとっても邪魔であり、襟首事件は村上を遠ざけるにはちょうど良い口実となりました。

(5)、岩出教会の前任牧師（基孝文師）は、木村さんを嫌っていた様で、自分から担当教会の変更を希望して、南仙台教会へ移りました。本当はすぐにでも転任したかったそうですが、理由を知らされていない木村さんは
150 「いま、基孝文牧師が去ってしまったら、基孝文先生の子供の友達とその親が来なくなってしまうので、待ってほしい」と教団に願い出て異動を3年間、待ってもらったそうです（待ってもらった話は木村さん本人から聞きました。）

そして基孝文先生は、3年後に晴れて異動で南仙台へ赴任しましたし、
155 その後、基孝文先生のお子さんの友達は何一人、岩出教会には来ていません。（礼拝が始まると、木村さん達の意向によって、子供たちは外に待たされるのですから、当たり前だと思いますが）。

木村さんは「牧師の人事」について理事長とやり取りすることに慣れている、悪くいえば「教会の牧師に関しては自分に権限がある」と自負
160 していたと思います。

(6)、木村さんの妻洋子さんは、えり首事件直後、“献品”とって教会に持
てきていたお米やしょうゆ等の調味料、調理器具等を「うちで持ってきたものは、持って帰ります」といって皆の前でかき集めて、籠に入れて
165 持ち帰りました。そして家族の集う自分の出身教会（畑野理事長のいる岸之里教会）に出席し、「村上先生がいる限り、私は岩出教会の礼拝には出席しない」と言っていました。

また、木村さんは、村上が木村さんと意見がぶつかると、しばしば「そんなこと言ったら、洋子が来なくなる！」と言いました（私が知っている限りでは、趣意書発送で何もしないことを開き直る木村さんに主人が
170 怒った時、えり首事件の時です）。

ちなみに、川原さんは襟首事件の後、「木村さんの方が悪い。会社じゃ、
上司が部下をあんな風に怒ることはしょっちゅうだし、年下の部下が、年
上でありかつ上司である人に、あんな態度をとるなんていうほうが許され
175 ない。気にせんでいい。“洋子”の為に教会があるのではない！」と、私に言いました。

(7)、そのような関係にある木村さんと畑野理事長が、教会の会議も開かせず、
独断的に人事を行ったのは、非常に悪質で計画的だったと思います。木村
さんは自分の方針と合わない村上を排除したかったし、洋子さんの件を何
とかしないと岸之里教会の牧師としての立場がないし、さらに畑野理事長

180 は他の理事達や自分のJEAでの立場の都合上、建築士の問題を迫及させ
たくなかった、という目的が合致したので、畑野理事長は今回の村上の人
事を任命権の乱用によって、非合法的に決めたとし、他の理事達や教区長も
富澤建築士を守るために、理事長の横暴に目をつぶった、と思うのです。

185 5. 乙6号証に署名した人の事情

(1)、私共は、当初、主人の解任理由を理事長からも誰からも告げられませ
んでした。いくら尋ねても「総合的な判断」の一点張りでした。12月、電
話で馬場師に私がしつこく迫った時、「自分の胸に手を当てればわかること。
わかるでしょ？名前は言えないけど、解任を希望する署名もあるんです」、
190 「貴女も教団の教職になりたいなら、もっと賢くなりなさい。いくら優秀
な成績であっても、教職として受け入れるかどうかは私達が決めるんです
よ。口を慎みなさい」と言われました。

そして1月30日、本田師と大嶋師が岩出教会に来た時、主人が「署名
がある、と聞きましたが？」と話を切り出すと、初めて署名(乙6号証)
195 をチラッと見せてくれました。その時、川原さん、谷澤さん、角谷さんの
サインがあることに、私達は目を疑いました。「あり得ない」と思ったので、
その場で即、両師に「これは本当に本人の意思で書いたのか確かめてほし
い。木村さんを前にして断れなかっただけだと思うから、木村さんのいな
い所で本音を聞いてほしい」とお願いしました。けれども「我々に、この
署名を疑えと言うのか？一人一人に、いちいち確認しろ、というのか。そ
200 れこそ、そんな風に信徒の署名を疑うような牧師はいらない」と断られま
した。「“資質についてのメール”とはどんな内容なのか、木村さんの態度
を除けば、現在の教会はごく平和であるが、それが“岩出教会の一致が困
難”とはどういう状況を言っているのか」と尋ねましたが、両師は「解任
205 は決まっているのだから、そんなことはもう、関係ない。それに任地指定
委員会で話し合われた内容は非公開だ。我々は11月に告げた解任を再度告
げに来ただけだ。それから、来年度は巡回教師に任命することを告げに来
ただけだ。巡回を蹴ったら、何も無くなるだけで、岩出教会の牧師も他の
何処かの教会担当にもなれない。」と言われました。

210 「何故、全く調べる気持ちがないのか。本当に岩出教会のことを思っ
てくれているのなら、何故、教会内の実情をしり、今回の件についても容易
に“木村さんの関与”を推測出来る牧師の言葉に耳を傾けず、拒否する
のか。何故、何の話し合いも無く、一方的に“巡回教師”と決まってし
まっているのか。私共は教団の決定に不信感でいっぱいでした。

215 (2)、ですから、私達は、乙6号証はきちんと話し合われた教会の意志ではな

く、木村さんが仕組んだものであり、任地指定委員会もそれを承知の上で受け取っている非常に悪意あるものと確信しています。

220 裁判になり、初めて、この乙6号証をよくよく手にとって読みました。また、乙3号証のようなメール(?)や答弁書の内容も初めて知りました。余りの事実無根のひどい内容にめまいを起しそうでした。例えば村上が建築士を脅したり吹っかけたりしてお金を脅し取ろうとしたとか、しかも証拠に残るであろう“通帳に振り込め”と言ったなどという、刑法にも触れるような名誉棄損の虚偽は、作り話にしても余りにも虚偽すぎます。現場で雨さらしになって含水率を越える資材で建築したこと、225 カ月近く完成が遅れたことについて、値引き交渉はしましたが、現金が貰えるわけでもなし、村上が「ビジネスチャンスだ」と言ったとあるが、一体どうやって“値引き金額でビジネス”をするのか、全く理解できませんでした。こんなワイドショーの噂話のような内容で、こんなにも簡単に“牧師の資質が無い”と一方的に判断されたのかと思うと、人間不信に陥りそうなほどでした。

230 (3)、この乙6号証について、私は、角谷さんには電話で、谷澤さんについては訪問して、確認しましたが、この2人は乙6号証にある「牧師としての資質についてのメール」が何を指すのか、知りませんでした。

235 また、古田さんのサインは、本人のものではなく川原さんが書いたものでした(解任された後、主人がご自宅へ尋ねて言った時、川原さんがそう仰ったそうです)。

(4)、角谷明子さん(幼稚園経営)

240 角谷さんは監査役員です。もしも教会内でこのような問題が起きたら、牧師に確認し、必要ならば教会総会を招集する職務にあります。今回のことに関して、牧師には一切確認していません。「何故、確認してからサインのしなかったのか?場合によっては総会を招集する必要もあったのでは?角谷さんにはその権利だけでなく、監査としてその義務もあったのでは?」と尋ねたところ、「“木村さんがそういっているのだから、村上先生に確認する必要はない”と判断した。」と電話でおっしゃいました。

245 でも、角谷さんはこの1年間のうち、ほんの3、4回しか礼拝に出席していないし、特に6月29日の時はいなかったもので、事情はまったく知らないはずなのです。

250 乙6号証に「一致が困難」とあるが、何がどう困難なのかを尋ねても、「私(角谷)は毎週行っていたわけではないので、それは知らない」とはっきりいわれました。また乙6号証にある「牧師の資質についてのメ

ール」の内容も、知らない、とのことでした。

(5)、谷澤さん(元JR職員)

255

谷澤さんは教会の会計、また会堂建築の会計を一手に引き受け、また多額の献金をもって教会財政を支えている方で、皆の信望は厚い人だった。

260

私と主人が谷澤さんを訪ね、何故サインをしたのか話した時、谷澤さんは「村上先生には、悪いと思っている。長年の課題だった会堂建築をどの牧師も着手してくれなかったが、財政的には一番困難な、しかしもう会堂が崩れかかっているというにもならない一番大変な時に、村上先生がやっとみんなを引っ張って着手してくれた。だから本当は先生と一緒に、これから教会を盛り上げていきたかった。だから本当はサインなんかしたくなかった。一体、何故こんなことになってしまったのか」と仰っていました。御自身は「足が悪く、妻の卓子さんは目に障害がありよく見えないので遠くの教会には行けないし、教会の納骨堂に収めてある御両親の御骨のこともあるので、木村さんとの関係を考えると、サインせざるを得なかった」と言っておられました。

265

270

「何故、総会を開こうと言わなかったのか」と尋ねた時には、「木村さんが“総会はいらない”ここにサインしてくれれば良かったよ」と言っていました。また、「私は、村上先生の解任を希望したわけではなく、とにかく、サインしないと木村さんがおさまらなかった」と仰っていました。つまり、署名した所に書かれていた文章の趣旨を全然、読んでいなかったということです。さらに、裁判になっている今、唯一谷澤さんだけが、「何でも協力するよ」といって、署名した経緯を話して下さり、もしも、裁判で村上が勝って岩出教会の牧師に戻るならば、その時は、木村さんはどうするか分からないけど、自分は村上を拒否することは無い、と仰っています。それなら何故サインをしたのかと推測するに、夜遅くまで、木村さんの要求通りにサインするまでは谷澤宅での話し合いが続き、谷澤さんにとって相当なプレッシャーだったのではないのでしょうか。

275

280

(6)、川原さん(元、住友金属社員、定年退職)

285

「洋子さんが村上先生を追い出したら、おれが洋子さんを教会に入れたい」、「会社に大損害を与えた時なんて、胸倉をつかまれて怒られることは、会社じゃよくあることだ。それよりも、村上先生に対する木村さんのあんな態度のほうが社会ではあり得ない。」「村上先生があれだけ怒っても、木村さんはまだ分かっていない。彼に、この教会を辞させるわけにはいかないのか?」「信徒代議員を交代してもらうことはできないのか?」などと仰っていた川原さんのサインがあったことに、驚きました。

そこで、主人が川原さんに尋ねたところ、「おふくろのこともあるし（お母様は岩出教会での熱心な信者だった、4年前に亡くなった）。それに、サインしなかったら、それでも木村さんは来るだろうから、そしたらもう私は教会に行けない。仕方なかった。木村さんが一歩も譲らんのよ。」とおっしゃったそうです。

私が歯医者で偶然川原さんと会った時も「木村さんは、社会を知らんのよ。自分が腹立ったら、もう、私とか村上先生の方が年上とか先輩なのに、そんなこと関係なく、もう人の話はきかんのよ。」と仰っていました。そして最後まで村上を慕って下さり、村上が解任となる直前の3月、川原さんから“お母様の納骨式を村上先生に執り行ってほしい”という依頼があり、木村さん抜きで執り行わせていただきました。

※川原さん以外にも、児島さんが、「先生がお辞めになる前に、木村さんと呼ばずに納骨式をしたい」と連絡があり、執り行わさせていただきました。

(7)、古田さん（元小学校校長、定年退職）

教会監事であった古田さんは、教団から岩出教会を解任されることが決定した後の祈祷会（木曜日 1時～）の席で、村上が「あと〇回で、この祈祷会も終わりますね」と言った時、「何故？」と尋ねてこられました。そして、事実を知った古田さんは「ええっ？教団がそんなことを言ってきたんですか？」と非常に驚いていたので、主人の方が逆に驚きました。「ああ、この方もご自分が何にサインしたのか知らないんだ。」と思いましたが、後で川原さんにきいたところ、古田さんのサインは、頼まれて川原さんがした、とのことであり、木村さんの怒りに煽られてサインの意思表示はしたが、その内容は分かっていなかったのだろうな、と思いました。

6、乙6号証について

この署名は、木村さんの声掛けによって谷澤さんのお宅に夜、皆が集まり、木村さんが用意したこの用紙にサインしたと、谷澤さんから聞きました。しかも谷澤さんの疑問に対して木村さんは「教会総会は必要ない」と断言していますから、事前に教団の誰かからの指示（指導）があったのは確かです。

また、裁判が始まってから、私が祈祷会の開かれている岩出教会に行って、この署名の作成された前後の責任役員の記録を見せてほしい、と申し出た際に、真柳牧師は「そのような記録はない」と仰いましたし、そこに居合わせた谷澤さんも「そういう記録はない」と仰いました。

ですから、乙6号証は、ここに集まった人々の皆の共通認識として、サインの上にはそれぞれの肩書きを添えてはいますが、「招集された総会」でもなく、責任役員を招集する権限のある村上の知らない会合で作られたものですから、「責任役員会」でもありません。そして特に川原さんや谷澤さんに

325 としては、「個人宅という閉ざされたところで、精神的に圧迫され、サインせざるを得ない状況の中でサインしたもの」であったということです。

サインした経緯について谷澤さんに何度尋ねても、彼は「木村さんが、もう、(谷澤さん、川原さんの意見を)聞かんのよ。もう、木村さんが納まらないから、仕方なかったんよ」とおっしゃいます。夜遅くまで自分の家で会議が開かれ、皆がサインするまで会議を終えない、という木村さんのやり方は、偏執的だと思います。木村さんは誰かの指示により、教団に提出する為に、どうしても署名が必要だったのでは無いでしょうか。

7. 会堂建築問題 (富澤建築士と木村さん)

335 (1)、教団は村上を“牧師の資質に問題がある”といますが、当時村上が、木村さんの独善的な判断に振り回されていた状況下では、とても牧師としてまともにその職務を全うできるような環境ではありませんでした。特に教会堂建築問題では、日頃お世話になっていた前野司法書士や、(公益財団法人)住宅リフォーム紛争処理支援センターからも「そこまであからさまで大規模な図面・契約の無断変更は“素人の交渉の域を超えている”」とアドバイスを受けたほど、あの建築内容はひどいものでした。それほどの問題を木村さんは、不自然なほどに「いいじゃないですか。いいじゃないですか。」と言って富澤建築士の不正が明るみに出ることを隠そうとしました。そんな木村さんを説得しながら、私達夫婦は対処してきたのです。そして、次々と切りが無いほど無断変更や問題箇所が出てくるにもかかわらず、その説明や対応も全く不十分な富澤建築士に対して、村上のストレスは限界を超えそうでした。

340 村上の職務である毎週の説教は、ただ物理的な時間があれば出来るものではありません。それなりの心の準備、思いめぐらす時間が必要です。然し、この建築の数ヶ月間は、そんな時間は無いも同然、という週もあり、それこそ牧師としての職務に支障がでそうでした。設計図と違う工事をどんどん進め、バレたところだけ事後承諾にしようとする建築会社や建築士に対して村上は「“教会だから赦してくれる。牧師だから怒らない”」と思って馬鹿にしているだろう！」と怒鳴ったこともあります。それでも、建築士はノラリクラリとし、契約と異なる工事を止めませんでした。自分の家なら適当に赦すこともあり得ますが、教会建築は、そうはいきません。

355 富澤建築士は250万円という、相場よりかなり高額な設計と監理料を受け取っていながら、監理の手を抜くどころか、建設会社には「施主(教会)の意向です」と伝えつつ、教会に無断で契約図とは異なる工事を指示していました。村上は、その変更を見つけて指摘しなければならないのですから、も

360 う村上自身が“設計監理者”と言ってもいい状態でした。しかも、村上は視力に障害がありながら（2級）その視力を酷使して、細かい図面の確認作業をしましたが、すべて、木村の「いいじゃないですか。」の一言で終わりました。

365 村上が理事長らに呼ばれた7月、村上がまだ建築の問題について詳しい説明をしていない段階で、理事長は突然「そんなに細かいことに拘らなくてもいいのではないか」と言われたので、村上は“一体、何を根拠に理事長がそのような事を言いだすのか”と不思議に思ったそうです。

370 工事の後半、木村さんに誘われてこの会堂建築に関わってくれていた下方さんが、村上と共に富澤建築士との交渉に当たってくれましたが、木村さんは、自分で誘っておいた下方さんに対し、「教会員でない人は口をだすな」といって追い払おうとしました。こうした状況の中で襟首問題が発生したのです。

375 (2)、私は主人が木村さんの襟首をつかんだことを正当化したい訳ではありません。しかし、答弁書に木村さんが「本当の意味での謝罪でなければ」とありますが、それは「会堂建築について富沢建築士の失態を責めたことを詫びよ」という意味であり、教団が単純に考えている「襟首をつかんだことを謝れ」ではないと思っています。角谷さんも「“木村さんは、胸倉を掴まれたことは赦している。しかし村上先生に辞めてもらいたいのは、牧師としての資質がないからだ”と仰っている。」と仰っていたからです。

380 (3)、詐欺行為にも似た無断変更箇所を幾つか見つけていくうちに、「もしや、ごまかされている所はもっとあるんじゃないだろうか？」と気付き、クリスチャン建築家を標榜する富沢建築士に絶望しました。さらには、富澤建築士を呼んで説明を求めた村上に対し、皆の前で不信仰者呼ばわりして持論を説教し始めた木村さんには、不気味さすら感じました。それにもかかわらず、
385 村上の教会を守りたい一心故の村上の行為（襟首事件）を、一方的に「牧師らしからぬ」と責め、教会の意向も測らないなら、そんな地位に置かれた牧師に教団が期待する“熱心”や“職務”とは一体なんであるのか、お尋ねしたい程です。聖職者の最大の義務は、教会とそこに集う信徒の信仰を守ることです。ですから、木村さんの襟首をつかんだことは、単なる一信徒さんの襟首をつかんだこととは違います。村上が怒ったのは、教会が契約通りの会堂建築を主張する村上に対し、これを妨害する木村さんの《信仰という仮面の下の偽善的・独善的な行為》に対してです。木村さんこそ、襟首事件よりはるかに前から、「信徒代議員」という立場からのパワハラを繰り返し、教会員に「信仰は誰に倣うべきなのか」を混乱させ、秩序を乱してきたのです。

395

8. それでも尚、私共が教団を離れず、教団に期待すること

それでも尚、村上は牧師として、私も牧師を志して神学校を卒業した者として、どのような方々であっても、主イエスキリストの御前には等しく尊い魂、だと思っております。

400 私達が今、望んでいるのは、教団がきちんとした手順にのっとり、宗教法人である岩出教会の自治の権利を認め、理事長たちが自分たちの利害関係や保身のために無名の一牧師である村上に汚名を浴びせ、トカゲのしっぽのように切り捨てるのではなく、規則に則って正しく判断してくれることです。さらには、理事長が木村さんと結託して奪った《岩出教会が富澤設計士から

405 被った被害について声を上げる権利》が確保されることです。何のために規則があり、戒規があるのか、何のために宗教法人になったのか、先達たちの定めた規則をもう一度、思い起こしてしてくれることです。 以上

2016年11月8日

村上真理子 